

第14回「日本医師会 赤ひげ大賞」受賞者紹介

(順列は北から：敬称略)

「赤ひげ大賞」受賞者（5名）

■福島県医師会推薦 きむら もりかず 木村 守和 医師 66歳 社会福祉法人楽寿会 理事長



往診や訪問診療に取り組むとともに、特別養護老人ホーム・訪問看護ステーションを運営し、多職種連携によるネットワークづくりに尽力してきた。東日本大震災後は被災した地域のために地域包括ケア、台風水害支援、新型コロナウイルス感染症対応を主導してきた。学校医、産業医も25年以上務め、小中学生に認知症、在宅医療、がんなどについて伝える「いのちの授業」を展開。2023年に自身がALS(筋萎縮性側索硬化症)を発症し、医師であり患者でもある立場から、自分の声を読み上げるソフトを用いて講演を続けている。

■埼玉県医師会推薦 はやし ただし 林 正 医師 93歳 大宮林医院 顧問



産婦人科医として66年、父の代からの医院を継承し、これまで1万人以上の出産に携わっている。昭和50年代にはラオスの内乱で国を追われ旧大宮市に移り住んだ約50名の難民の人々の健康管理に協力した。また、言葉も通じず習慣も異なる異国で不安を抱えている妊婦10名の分娩、産前産後の健診を無償で行った。「いのちのバトンを繋ぐこと」を代々受け継ぎ、女性の一生、思春期から老年期まで年代ごとの悩みや不調を解決するために寄り添うパートナーを自負。1年後の開院100周年を見届けることを目標に、今なお現役を続ける。

■新潟県医師会推薦 かわむろ ゆう 川室 優 医師 80歳 高田西城病院 理事長・院長



故郷である上越地域の精神科医として、30代から住民の「こころの病の健康・予防」に尽力。現在まで二つの病院の「仁寿の精神」を受け継ぎ、地域医療を行っている。1980年代よりグループホームの前身の共同住居活動を基に、1981年に社会福祉法人を創設し、医療の傍ら、精神障がい者が地域で暮らす住居・就労ケア（工房でのパン作業、農作業など）を続けている。障がい者への「偏見・差別解消の理解」のため、「まあるい心で共ににっこり」をスローガンとして住民と共に、祭・音楽会・マラソン大会などを長きにわたり開催している。

■大阪府医師会推薦 でみず あきら 出水 明 医師 73歳 出水クリニック 理事長・院長



「家で療養したい」という患者の願いをかなえるため、1996年に出水クリニックを開業。以来、一般内科とペインクリニックの外来診療と並行して、在宅診療ではこれまで1500人以上に寄り添い、900人以上の看取りを行った。他の診療所との相互連携により、24時間365日体制で在宅医療を提供する枠組み「岸和田在宅ケア24」を実現している他、在宅医療に関する医学生や研修医への指導、市民への講演、医師会の医療介護連携事業などにも尽力。独居高齢者や在宅看取り患者の家族への支援などにも取り組んでいる。

■徳島県医師会推薦 まえがわ ゆうこ 前川 裕子 医師 50歳 徳島県立三好病院 内科 副部長



東日本大震災に衝撃を受け岩手県宮古市に移住し、被災地支援にとどまらず、循環器科常勤医が不在だった病院で、24時間緊急対応可能な循環器診療の実現に尽力した。2023年に故郷の徳島県に戻り、医師不足や高齢化が進む地域において、県立病院の内科に勤務しつつ、準無医地区の診療所にも赴く他、学校や高齢者施設との連携、地域住民への健康講話などにも力を注ぐ。2024年には能登半島地震の被災地支援に県医師会から日本医師会災害医療チーム(JMAT)として参加。平時も災害時も患者に寄り添う医療を掲げ、実践している。

「赤ひげ功労賞」受賞者（20名）

<small>すぎやま</small> 杉山 茂 (北海道)	<small>おの せ</small> 小野瀬 好良 (茨城県)	<small>おがた</small> 尾形 直三郎 (栃木県)	<small>ほしの</small> 星野 仁夫 (群馬県)
<small>まつなが</small> 松永 平太 (千葉県)	<small>なかさと</small> 中里 厚 (東京都)	<small>もりしま</small> 森島 昭 (神奈川県)	<small>いむら</small> 井村 優 (石川県)
<small>はぎの</small> 萩野 正樹 (福井県)	<small>おさだ</small> 長田 忠大 (山梨県)	<small>はやし</small> 林 悦三 (静岡県)	<small>さかくら</small> 坂倉 究 (三重県)
<small>いせむら</small> 伊勢村 卓司 (京都府)	<small>おおした</small> 大下 智彦 (広島県)	<small>やすもと</small> 安本 忠道 (山口県)	<small>おかもと</small> 岡本 啓一 (高知県)
<small>おの</small> 小野 辰也 (佐賀県)	<small>やました</small> 山下 昌洋 (熊本県)	<small>よしだ</small> 吉田 史郎 (大分県)	<small>もり</small> 森 明人 (鹿児島県)

年齢は2026年1月7日現在



「日本医師会 赤ひげ大賞」について

「日本医師会 赤ひげ大賞」は、日本医師会と産経新聞社が主催となり「地域の医療現場で長年にわたり、健康を中心に地域住民の生活を支えている医師にスポットを当てて顕彰すること」を目的として、平成 24 年に創設したものである。

【主 催】日本医師会、産経新聞社

【後 援】厚生労働省、フジテレビジョン、BSフジ

【協 力】都道府県医師会

【特別協賛】太陽生命保険

【対 象 者】

病を診るだけでなく、地域に根付き、その地域のかかりつけ医として、生命の誕生から看取りまで、さまざまな場面で住民の疾病予防や健康の保持増進に努めている医師。

日本医師会及び都道府県医師会の会員で現役の医師（ただし、現職の日本医師会・都道府県医師会役員は除く）。

【推薦方法】各都道府県医師会長が 1 名を推薦

選 考 委 員

羽毛田信吾（恩賜財団母子愛育会会長）

向井 千秋（東京理科大学特任副学長）

檀 ふみ（俳優）

ロバート キャンベル（早稲田大学特命教授）

森光 敬子（厚生労働省医政局長）

医学生 （京都大学、京都府立医科大学、徳島大学）

城守 国斗（日本医師会常任理事）

黒瀬 巖（日本医師会常任理事）

羽成 哲郎（産経新聞社常務取締役）

河合 雅司（産経新聞客員論説委員）

赤ひげ大賞公式サイト



【表彰式・レセプション】令和 8 年 3 月 5 日（木）午後 5 ～ 8 時 東京プリンスホテル